

つかみ取った、普門館

全国大会 金賞受賞

歓声と拍手につつまれて

五十二期I組 原田 いずみ

十一月一日午前七時、全国大会前日、私は吹奏楽部取材の為、駒澤大学記念講堂へ向かった。卒業して三年が経ち、私に挨拶を返してくれた。す



第51回 全日本吹奏楽コンクール
社 全日本吹奏楽連盟 朝日新聞社

第51回 全日本吹奏楽コンクール 於 普門館 2003.11.1&2
東京代表 東京都 駒澤大学高等学校吹奏楽部
指揮 吉野 慎行 作曲
松浦 伸吾 作曲
課題曲：マーチ「ベスト・フレンド」 P.ウィリアムズ 作曲/S.ネステイコ編曲
自由曲：コンサートバンドとジャズアンサンブルのためのラプソディー

- | | | | | | | | | |
|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 秋山 瑛子(3) | 小川 結美(3) | 島田 祥子(3) | 三原 崇(3) | 伊藤 尚平(2) | 菅川 理恵(2) | 平林 悠(2) | 由地 文音(2) | 早崎可奈子(1) |
| 池上 智恵(3) | 菊池 悠子(3) | 武本 涼子(3) | 山川 綾子(3) | 小野真奈美(2) | 榎 晃二(2) | 松浦 美香(2) | 横山 拓哉(2) | 宮原 信二(1) |
| 若田 力哉(3) | 工藤 祐子(3) | 土屋 亮(3) | 山本 昌(3) | 河合 夏実(2) | 佐藤 安之(2) | 高広 高広(2) | 浅見由佳子(1) | |
| 大塚 龍(3) | 小泉はるの(3) | 中野 拓也(3) | 横尾 高弘(3) | 菊池 達平(2) | 鈴木 宝(2) | 渡子(2) | 岩立 麻友(1) | |
| 大塚 巧(3) | 古賀 琢人(3) | 芳川知恵美(3) | 吉田 有紀(3) | 久保田夏海(2) | 照井秀太郎(2) | 山下 ゆか(2) | 遠藤 健太(1) | |
| 緒方健一郎(3) | 志田あゆみ(3) | 美濃部遥香(3) | 石原麻由美(2) | 小島 祐太(2) | 萩田 理紗(2) | 山下 武雄(2) | 高橋まり子(1) | |



題字・故 上野慧賢先生
発行所 駒澤大学高等学校 同窓会
正会員数 22,412名
東京都世田谷区上用賀1丁目
〒158-8577 TEL.3700-6131代
FAX.3708-7291
振替口座 0018-6-61881
http://www.komazawa.net
E-mail:dosokai@komazawa.net

さすがしくて心地がよく、その眼差しには強い意志を感じた。大会を明日に控え、多少の疲労はある様子だが楽器を持つと気を緩めることもなく、今日も一日精一杯練習して、つとつと上手く演奏しようという気持ちが感じられた。

吉野先生にバンドについてお話を伺うと、今年は挑戦の年だと先生はおっしゃった。なぜですか、と聞くと、演奏する曲についてお話を聞く事ができた。コンクールは原則として、大会で決められた課題曲と、各校自由な選択の自由曲を十二分以内で演奏し、審査員五人の審査を受けるというものである。自由曲に規定はない。今まで我が校は自由曲に、オーケストラで演奏される曲や吹奏楽オリジナルのクラシックな曲を選曲してきた。ところが今年はずっとジャズ風の曲を選曲したのである。なるほど、挑戦とはそういう事ですね！と納得をした。だが、本当の挑戦とはそれとは別にあつたようである。では何かというと、この曲で果たして東京都予選を突破できるのだろうかという事である。なぜなら、東京都ジャズの曲を演奏して全国大会まで進んだという前例がないからである。そんな中での予選突破、全国大会出場であるから、先生にとっては過去にない喜び、安堵を感じられた様子だった。

午後、朝七時からの練習、毎日の練習の為か、疲労の色が隠せない様子だ。心配して様子を見て来て下さったコーチの顔に不安の表情が広がる。やる気はあるのに思うように演奏できないようだ。これ以

上疲れさせては明日の本番をベストな状態で迎えられないと、不安を残しつつも練習を打ち切り片付けに入る。メンバーにも少し不安が残ったようだが、ゆっくり休んで本番にいい演奏を聴かせてほしいと思った。

十一月二日、吹奏楽コンクール全国大会当日、会場となる普門館には、開場の一時間も前から長蛇の列ができていた。高校の部は特に人気で、前売り販売しきれない全国大会のチケットはすぐに売り切れ、インターネット上ではプレミアが付く程の人気ぶりである。普門館は「吹奏楽の甲子園」と呼ばれ、毎年、高校の部の全国大会が開催される。日本全国の高校吹奏楽部がこの舞台で演奏することを夢見て、厳しい練習を乗り越えて、地区予選を通過して全国大会へと進んでくるのである。今年、我が校吹奏楽部は、都内約六十校のライバル達の中から選出され、都代表二校のうちの

一校としてその舞台で演奏できることとなった。全国大会出場は今年で三年ぶり八回目となる。駒澤の演奏を普門館で聴くことを心待ちにしていた吹奏楽部OGとして、とても嬉しい限りだ。また、今年も顧問の吉野先生が駒澤大学高校勤続二十年の記念の年で、喜びもひとしおである。

長蛇の列に並びながら、高校時代を思い出した。毎日毎日練習に明け暮れ、仲間と頑張った事、先生に叱られた事、褒められた事...。今年のメンバーもそんな日常を送りながらこの日を迎えたんだろうな、と考えていたら列が進み始めた。ホールに入ると、席はす

でに満席状態。審査員席に近い、いい席に座ってゆったり演奏を聴こうと思っていたが無理そうだった。演奏は立って聴く事となった。

開演。一番目から三番目の学校の演奏が終わり、四番、駒澤大学高校。朝九時過ぎだというのに、会場の熱気と興奮はすこかった。舞台上のほり、着席をした部員達は堂々と観客を見据えている。かつこいい！そう思った。吉野先生が少し緊張した表情で客席に向

かっておじぎをし、部員の方へ向き直り、指揮棒がおりた。ホール全体が駒澤の音楽に吸い込まれていく。のびやかでキラキラしたサウンドが広がり、力強く芯のある音楽が流れる。部員達と先生でつくり上げた音楽は、私の心に、聴いている人の心に響いた。あつという間に十二分間は過ぎた。直後、「ブラボー！」の声。一体何人の人がブラボーと叫んでくれたであろうか。素晴らしい演奏であった。駒澤の演奏後、何校か他校の演奏を聴いて思った事は、どの学校も今日この日の為にたくさん練習したんだろうな、ということである。さすが都道府県の代表、どの学校も素晴らしい演奏だ。けれども、コンクールはシビアに彼らに金・銀・銅の賞をつける。

午前の部の全団体の演奏が終わわり、ついに結果発表の時刻が来た。私は口から心臓が飛び出るかと思うくらい緊張していた。部員達は一体どれほど緊張していたであろうか。

一番の学校から順に発表されていく。握り締める手に力が入り震えていた。「四番、駒澤大学高校、ゴールド金賞」割れんばかりの歓声と拍手を浴び、キャプテン、副キャプテン、学生指揮者が舞台の上で輝いていた。客席の部員たちは抱き合ったり喜び、舞台にのれなかつたメンバーたちも泣いて喜んでた。今回の金賞という賞は、部員全員で手に入れた、努力と涙の結晶である。

音楽には人の心を動かす力があると私は思う。音楽を聴いて感じる、やすらぎや喜びや悲しみ、パワー、それらは、演奏する人のメッセージ、つまり心である。吹奏楽部は彼らの音楽を奏で、私たちに大きな感動を与えてくれた。結果はもちろんだ、私はそれ以上に、彼らの日々の努力に大きな拍手を送りたい。そしてこれからも、たくさんの人に支えられて音楽ができる喜びを忘れず、多くの人に駒澤の音楽を聴いていただけるよう頑張りたい。

一番の学校から順に発表されていく。握り締める手に力が入り震えていた。「四番、駒澤大学高校、ゴールド金賞」割れんばかりの歓声と拍手を浴び、キャプテン、副キャプテン、学生指揮者が舞台の上で輝いていた。客席の部員たちは抱き合ったり喜び、舞台にのれなかつたメンバーたちも泣いて喜んでた。今回の金賞という賞は、部員全員で手に入れた、努力と涙の結晶である。



でに満席状態。審査員席に近い、いい席に座ってゆったり演奏を聴こうと思っていたが無理そうだった。演奏は立って聴く事となった。

開演。一番目から三番目の学校の演奏が終わり、四番、駒澤大学高校。朝九時過ぎだというのに、会場の熱気と興奮はすこかった。舞台上のほり、着席をした部員達は堂々と観客を見据えている。かつこいい！そう思った。吉野先生が少し緊張した表情で客席に向

かっておじぎをし、部員の方へ向き直り、指揮棒がおりた。ホール全体が駒澤の音楽に吸い込まれていく。のびやかでキラキラしたサウンドが広がり、力強く芯のある音楽が流れる。部員達と先生でつくり上げた音楽は、私の心に、聴いている人の心に響いた。あつという間に十二分間は過ぎた。直後、「ブラボー！」の声。一体何人の人がブラボーと叫んでくれたであろうか。素晴らしい演奏であった。駒澤の演奏後、何校か他校の演奏を聴いて思った事は、どの学校も今日この日の為にたくさん練習したんだろうな、ということである。さすが都道府県の代表、どの学校も素晴らしい演奏だ。けれども、コンクールはシビアに彼らに金・銀・銅の賞をつける。

午前の部の全団体の演奏が終わわり、ついに結果発表の時刻が来た。私は口から心臓が飛び出るかと思うくらい緊張していた。部員達は一体どれほど緊張していたであろうか。

一番の学校から順に発表されていく。握り締める手に力が入り震えていた。「四番、駒澤大学高校、ゴールド金賞」割れんばかりの歓声と拍手を浴び、キャプテン、副キャプテン、学生指揮者が舞台の上で輝いていた。客席の部員たちは抱き合ったり喜び、舞台にのれなかつたメンバーたちも泣いて喜んでた。今回の金賞という賞は、部員全員で手に入れた、努力と涙の結晶である。

音楽には人の心を動かす力があると私は思う。音楽を聴いて感じる、やすらぎや喜びや悲しみ、パワー、それらは、演奏する人のメッセージ、つまり心である。吹奏楽部は彼らの音楽を奏で、私たちに大きな感動を与えてくれた。結果はもちろんだ、私はそれ以上に、彼らの日々の努力に大きな拍手を送りたい。そしてこれからも、たくさんの人に支えられて音楽ができる喜びを忘れず、多くの人に駒澤の音楽を聴いていただけるよう頑張りたい。

一番の学校から順に発表されていく。握り締める手に力が入り震えていた。「四番、駒澤大学高校、ゴールド金賞」割れんばかりの歓声と拍手を浴び、キャプテン、副キャプテン、学生指揮者が舞台の上で輝いていた。客席の部員たちは抱き合ったり喜び、舞台にのれなかつたメンバーたちも泣いて喜んでた。今回の金賞という賞は、部員全員で手に入れた、努力と涙の結晶である。

今世紀のリーダーたれ!

八期・副会長 濱田好晃



聖諸氏の指導をいただきながら今日に至り、昨年四月より副会長をさせていただいている。

昭和三十二年四月に発足した同窓会は、当初その活動は充分とはいえないものであった。特に機構や会計の体制は脆弱で、より良いものを目差し意見を述べさせてもらってきた。

この状況下で同窓会全般を担い、同窓会の活躍の場を広げられたのが、浦敏之現高校校長である。

現在、日本の経済は資産デフレによる長期不況下にある。出口もまだハッキリとは見えていない。戦争は経済競争から宗教色の強い戦争へと色彩を変えて日本も世界の渦の中に巻き込まれつつある。

この様な情勢下で、今春駒澤大学高等学校を卒業される皆様は、創立以来五十有余年、知識偏重になることなく、洞察力・決断力・自己責任の養成という今世紀最も必要とされる教育の原点を推進してきた学校の中で足跡を残されたことは、大いなる財産を得たと言える。

変わらぬ教育理念のもと、知名度増した今日に至るまで、多くの卒業生が各分野の第一線で活躍している。

今春卒業の皆様は、今世紀のリーダーとして活躍される

ことが最も期待されている。それは先に述べた社会情勢の変化に加え、将来社会人として世に出、他国の人々と接したとき、比べれない程の人間としてのバックボーンたる精神・教育・思想を身につけているからである。

日本人が日本人である原点を心底に存し、輝かしい未来へ邁進されることを切望している。

未筆になりましたが、母校同窓会への思いが胸を過った時、母校発展の為進んで協力出来る人であることを、希望ある皆さんの未来に託します。

卒業誠におめでとうござい

追悼 若林元典先生



昨秋(九月十一日)、若林先生が亡くなられた。第六代校長として昭和五十八年四月から六十二年四月まで、一

期三年間という短い間ではあったが清々しい印象を残していたが、都立高校の教員として、校長として(昭和四十八年から

は駒大文学部教授として)長い間教育に携わってこられた先生の指導によるこの三年

は、私たち教員にとって今までにないほど新鮮かつ斬新な印象を感じさせるものであった。言葉だけでなく、行動でも、また全身から漲ってくるその雰囲気からも自然と範を示される先生からは、私たちばかりでなく生徒たち一人一人にも何かを感じさせる点で、教育者の名に相応しいものであったと思う。

一番印象的なことは、その決断の素早さであった。朝礼などでも、生徒の様子を見、何が今必要なのか、効果的であるのかを瞬時に判断し、行動に移された。ただ一言で済ませられた時もあった。生徒

たちは呆気にとられ、その後の朝礼では、今日はどうだろう、どんなことが話されるのだろうと意識を集中させていた。なんと効果的な対応であったことか。

長年義務づけられていた帽子着用の自由化の時も、先生の口から発せられると、生徒たちは解放された大喜びする一方で、自身の行動を自ら律しなければならぬ責任を痛感するようになった。私たちにしても学校にとっても必要だと判断されたことは迷わず即実行に移された。教育とはどういふものなのか、どうあることなのか、それを日々示されていた。

六十二年に退職されてから十七年、お会いすることもめったになかったが、先生の残されたものは今も私たちの中で得なくなつた事は、彼に比べてのみでなく駒大高同窓会にとっても非常に残念な事であった。

石田君は、素晴らしい奥さんと結婚し、二人の子供さんと一緒に暮らしている。私には、三軒茶屋の彼の自宅を訪ね、その時初めて奥さんと会い長男の誕生を祝福したことを鮮明に覚えている。その時の彼はまさに幸せ一杯であった。ところが、翌々年にその奥さんが幼い二人の子供を残して亡くなり、更に続いて長男の方が早逝されるという不幸が続いて起こった。

その後の彼は、紆余曲折を経て、長女の方の養育を第一に考えて過ごすことを決断された。長女の方は剣道を習われていたが、筋がよく娘は強

に生き続けている。各教室の正面に今も掲げられている「行学の心得」、形あるものだけでなく、わずかの間ではあったが少なからず薫陶を受けた私たちの心の中には、教員としての在り方、心構えが今も脈々と受け継がれている。

「行学の心得」
一、氣力を旺盛にし
集中心力を高めよう
二、目標を定め
日々時々の努力を続けよう
三、自らを信じ
自らを厳しく律しよう
四、師友を敬愛し
礼儀を正しくしよう
謹んでご冥福を
お祈り申し上げます。
日吉明廣・記(国語科)

石田一男君の死を悼む

一期・同窓会相談役 秋山彰三



同窓会副会長であった石田一男君の訃報を十二月十一日にいただき、それまでの彼の一生を思い、感無量のものがあった。

石田君は、第一期生として在原中学より駒大高校に入學し、席順がアイウエオなので私のすぐ前の机に坐り三年間毎日顔を合わせた仲である。彼は、責任感の強い、裏表の

ない真つ直ぐな性格で、何時も明るく、男らしい男であった。石田君は、私と違い運動神経に優れ、各種の競技をこなす万能選手であった。とくに三年生の時に世田谷区の私立高校の連合運動会で短距離と中距離の選手として出場し駒大高校のため得点を獲得したときの活躍は今でも目に浮かぶものである。

大学卒業後、中学校の体育教諭として、渋谷・世田谷の各校に勤務しスポーツ教育に情熱を燃やしていたが、身体をこわし志半ばで退職せざる

給え。

好漢惜しむらくは運に恵まれなかつた石田君よ、何時までも青年のようであつた快男子石田君よ、やすらかに眠り

同窓会・創立55周年

同窓会は平成17年に創立55周年を迎えます。記念総会・式典の日時・場所等の概要が決定しました。

日時 平成17年6月11日(土曜日)

午後4時より

場所 本校・各施設にて

会費 無料

56回 駒大高祭

文化公演会報告

四十八期C組 石川 美由紀



十一月二日第五十六回駒大高祭初日、新体育館において同窓会主催による文化公演会が行われた。

今回出演して下さったのは二回目の登場となる「パンパンG」の皆さん。四人組のコミックバンドである。ベースボーカルを担当しているのが「ポール吉田」こと三十八期D組の吉田慈さんである。

オーブニングでは素晴らしいテクノックを披露して下さいました。ビートルズの「スタン・ドバイミー」では、「発泡スチロール+ほつき」、「ガムテープ」を使って伴奏して楽しませてくれた。高校生にも大人気のS.M.A.Pの曲ではギャグ盛りだくさん。「青いイナズマ ゲッツ」、「夜空のムコウ 甲子園」、「学園天国 慎吾ママのオハロック」等。生徒達にも大ウケで会場から大きな笑いと拍手が沸き上がりました。

「ヤン坊、マー坊天気予報」は四つのパージョン、「演歌」は「フランス(シャンソン風)」、「アフリカ」、「人形浄瑠璃」で演奏して下さいました。見事にそれぞれのニュアンス、雰囲気が出ていて、見ても聞いても

リカのリズムにアレンジして演奏して下さいました。この曲では吉田さんは楽器をトランペットに持ちかえて素晴らしい腕前を披露して下さいました。

楽しい演奏であった。校歌は作られた時代のアメ

文化公演会に出演して

三十八期D組 吉田 慈 (ポール吉田)

十六年前の在学中、同級生とバンドを組み、自分達を見



左より2人目、ポール吉田氏

てもらいたい気持ちから無我夢中で演奏をした駒大高祭。その日から、私の根底にある気持ちは変わらないのだと気づかせてくれた文化公演会が、とても貴重な時間になりました。自己主張が苦手だった高校生の私は、限られた時間の中で自分自身を爆発させる事が、自己アピールの手段になるのではないかと考えました。華々しい世界を想像しながら心をときめかせていましたから少々迷いながらも芸能の道を目指すことを決めました。

も楽しんでいただけただけのではありませんか。確かに演奏技術・テクニクがあるからこそ、さらに笑いが生きてくるように思う。楽器も複数演奏できるようにしているそう。多くのプロセスを越えて今に至っているのではなからうか。

文化公演会を通じて生徒が何か感じたり、思ってくれると良いと思う。今年の文化公演会もきつと生徒の心に何かを残せたのではないだろうか。文化公演会を通じて生徒が何か感じたり、思ってくれると良いと思う。今年の文化公演会もきつと生徒の心に何かを残せたのではないだろうか。文化公演会を通じて生徒が何か感じたり、思ってくれると良いと思う。今年の文化公演会もきつと生徒の心に何かを残せたのではないだろうか。

バンパンGの演奏をみて

一年G組 青塚 由佳利

私は、バンパンGの演奏をみて、驚きました。一番最初に演奏してくれた曲が自分の知っていた曲だったからです。本物のグループの演奏にも劣らないほどの音の響きと迫力がありました。「速弾き」にはとても驚かされたし、すごいと感じました。ボーカルの人の声がお笑いの宮さこの声に似ていたというのが印象的でした。ボーカルの人が歌が上手いのかと思っていたら、ほかのメンバーも歌が上手かったことに驚きました。そしてなによりもおもしろかったのが、演奏をおもしろおかしくしてくれたこと

ンターテイメントが浮き沈みする今、私にとって二回目の文化公演会は、大きな課題と、新しい事を終えた時の喜びを教えてくれたと思います。新しいものは、一度見たら古いものになります。

駒大高祭・文化公演会 出演者募集

同窓会では駒大高祭で「文化公演会」を毎年(十一月二日)開催しています。「文化公演会」は在校生を対象に実施し、様々な分野での同窓生の活躍は在校生の心の中に深く刻まれ、喜ばれ好評を得てまいりました。そこで、公演者を募集したいと思えます。

自薦・他薦は問いませんが、是非、同窓会事務局の高木まで、ご連絡下さい。ご協力お願いいたします。

編集局より 会員の皆様 投稿をお待ち します

新幹事です、

よろしくお願ひ致します

- 常任幹事 武島 実佳 (G組)
- 幹事 海老澤 文 (A組)
- 濱田 麻衣子 (B組)
- 田原 穂 (C組)
- 荻原 和也 (D組)
- 小俣 慎司 (E組)
- 鳴海 香奈江 (F組)
- 樋口 実保子 (G組)
- 秋山 貞仁 (H組)
- 菊池 遠 (H組)
- 坂上 正幸 (I組)
- 網代 祐大 (J組)
- 大田 理乃 (J組)
- 杉原 英憲 (K組)

全日本酒造 全パブバンパンG

絶賛営業中!

目黒駅 東口より徒歩5分

東京都品川区上大崎2-16-1-B1

予約先: Tel & Fax 5423-2212

会員だより

わの広場

「最後の便り」

一期原 正男

訃報欄でご存じの通り一期の石田一男君が亡くなられました。

彼とは三軒茶屋の私の店の近くの教員住宅にいたのでよく会っていました。その後引越されましたが彼が同窓会の副会長になり私も役員をしていたので年に何回か会う機会がありました。その後体調を悪くされ副会長も辞され教員も退職し療養生活に入り会う機会もなくなりましたが同窓会創立五十年に発行した名簿で長野の娘さんの嫁ぎ先にいることがわかり文通を始めました。今年も(平成十五年)残り少なくなりそろそろ一学生者の近況を知らせなくては思っていた矢先駒大高から石田君が亡くなられたと娘さんから連絡があったとのこと驚いてすぐに電話をいれた所、八月に入院中の病院で心筋梗塞にて急死されたとのことでした。もう少し小まめに便りを出していればと自分の筆不精を悔やんでいます。

先日何げなく石田君から来た八ガキを整理していたところ一通だけ自筆の八ガキがあるのに気づきました。字を書くのが不自由とかでいつつもりプロで八ガキにぎっしりと打って来たのに、なぜもち

た時に気付かなかったのだらうと思つて日付を見たら六月で、この病院からの便りには「夏に向かつて遅くも七月中には帰りたいと思つていま」と書いてありました。その夏に彼は逝つてしまいました。いや思いがかなって娘さんや孫の待つている家に帰つたのかも知れません。最後にもらつた便りが彼からもらつた唯一自筆の八ガキでした。表書きはワープロです。

六本木そして駒沢

港区立六本木中学校校長 十六期D組 佐藤 公信



今は高速道路が上を通る玉川通りの路面を、のどかに走る玉電に揺られて通つた駒大高校。大学と合わせると、同じ場所に七年間通つたことになる。その高校も今は用賀の地に移り、記憶の中にある駒大高校とは結びつかない。ま

して、男女共学となつた母校の姿は想像すらつかない。卒業してから駒大高校に顔を出したのは多分一度きりだ。あれはたしか、教えていた生徒のための入試相談のときだった。あの時、担任だった懐かしい羽住先生や国語を教えていただいた上野先生、古典の神谷先生にもお会いした。しかし、それも随分と昔のことだ。

都内の公立中学校に勤務しているせいか、母校の駒大高校がさまざまところで活躍していることは、大変嬉しく感じているし、気にもなっている。それなのにまったく足を運ばないのは、叱られてしまいそう。

公立中学校の校長として八年が過ぎようとしている。今勤務している中学校は、東京タワーを眺めることができる港区の六本木にある。付近が再開発され、今年になって学校の隣に六本木ヒルズが完成し、いやに騒がしくなった。訪れる人には、こんなところ

に学校があるのかと驚かれるほど繁華なところに中学校はある。この六本木ヒルズ一帯は、私の勤務する港区立六本木中学校も含めて、江戸時代に長州藩毛利家の屋敷があつたところだ。その一面にテレビ朝日本社ビルがあるのだが、南側の、昔の地名で言うと、「日ヶ窪」は、「駒澤大学」の名で今の駒沢に移る前の「曹洞宗大森林」があつた場所だ。駒沢に移らなかつたら「六本木大学」であり、「六本木大学高等学校」だったかもしれない。こつした縁を思つと、孫悟空のお釈迦様の掌ではない

日本の食を支える

千代田物産代表取締役 十九期G組 芳野 博



高校を卒業して三十余年あまり経過し、振り返ると「矢の如し」ではございますが近況に絞り報告を申し上げます。私は平成四年に現在の会社株式会社千代田物産を設立致しました。

近況業績にては平成十三年度六十億円、平成十四年度百十五億円、そして今期は百七十億円を越す予測にて邁進努力致しております。末期におきましては、関連会社を含め全体で五百億円規模の会社に成長させていく事が具現化して参りました。この近況に致るまで、決して順風ではなく曲折を経験し現在に致っております。独立までは、父の経営する食品卸業に従事致しておりますが、「私自身が考える理念を実現出来る会社を持ちたい」との考えから会社を立ち上げようと思ひ独立致しました。経済概況として、私が関わつていた業界にては既存の卸売業は流通の流れから存在理由が薄れていく、又消滅すると考えておりました。一方で

物事の全てがデフレスパイラルに巻き込まれていくなかで「逆境こそが勝機(商機)」との考えが心の中で湧出して参りました。

そのなかで大きな資本や重たい組織を動かす会社ではなく、「シャープな頭脳集団を作る、世の中にならぬ稀有な会社を作りた」と思ふ様になりました。設立当初は培われた営業力に自信があるものの歯車が回らず顧客獲得に結びつく要因が見当らず苦心惨憺を繰り返しましたが、元来融通無碍の性格でありスピードのパワーは誰にも負けない自信がある為、大きな取引先との取り組みも実現し倍々で売上を伸ばして参りました。

本年は、中国青島市近郊に一万坪の工場用地を取得し中国産カット野菜をフレッシュの状態で船舶輸送を行う技術の開発に成功致しました。先般日経新聞系TV番組でも放映され、各方面より大きな反響を頂戴致しております。食を支える業界の「日本のNO.1」を実現出来る日もそう遠くないと実感致しております。

「こりや、困つた」 町田市議会議員 二十三期K組 高嶋 均



と、「何を書こうか」苦慮してしまつた。思い返してみると、駒大高校を送つた三年間は、もつ、三十年以上前の話になる。その当時は、男子高だった。男だけがうごめき、左右見渡しても男ばかりの三年間。だが、文化祭では女子高の輝く姿に目まいをおこし、女性の美しさに「あ」と脱力感を感じたのは、私一人ではなかつたはずである。勿論、こんな事ばかりに頭を回していたわけではない。卓球部員の一人として体を鍛え、精神を磨きぬいた日々の生活は、それなりに意義があつたのだらう。しかし、新入生には、「ちやうす」「失礼します」の発声練習の毎日。こりやたまらんと思つたが、恐い先輩に可愛がられ、抜けに抜けられぬ部活の日々。二年生になつて、試合で一回戦で負けたなら、「坊主頭」。北風に頭皮は鍛えられ、お陰でいまだに頭髮は若干ながら残つている。高校生活、少だけ勉強もした。友とのつながりも素晴らしい思い出である。馬事公苑を背にしながら行き交う友人との会話は、今でも忘れることはできない。「奴はどうしたかな...」そんなことを思つのは、私も年なのだらうか。

浮かばないのではないだろうか。私の存在は多分「はてさて、高嶋?そんな奴いたか?」しかし、人生とはまか不思議なものだ。そんな影のような存在の男が、今は、人前で大声を張り上げて、政治を語っている。人生とは、そんなもの。 実に面白いものだ。 陸上自衛隊から 駒大高の思い出を 振り返って 陸上自衛官 三十七期A組 中嶋 豊



度の部隊を直接指揮し有責任に備え日々訓練に取り組んでいます。ご存知のとおり、自衛隊は今、試されようとしています。過去の国際貢献活動等は、政治の自衛隊そのものに対する反対、過去の戦争の反省及び諸外国との関係から危険な場所に赴かせることに強い抵抗がありました。しかし現政権は違いますが、自衛隊だからこそ、危険が予想される場所に赴くことができると言っています。

京都にある部隊ではイラク派遣の話はありませんが、政府が決定したことを部下に納得させ、部下に命じ、実行させ、監督する地位にいる私は、隊員の命とその家族の重みを感じて勤務させていたただいては、自衛隊に対する国民の目は厳しいため自分にも部下にも厳しいことを要求

しています。特に何となく自衛隊に入隊する隊員に自衛隊の使命を自覚させ死地に赴かせる意識に到達させるには、相当の努力が必要です。今の苦勞から思うことは、「高校は将来の国家の担い手を育成する仕上げの段階」という意識を更に持たせることです。駒澤大学高等学校のすばらしいところは、仏教の教えを基礎にし、雲水のような公共心をもった学生を育成していることです。今後この事を重視して続けてほしいものです。

私のお寺⑧

山形県『西袋山・流泉寺』

十二期B組 納谷 僚一

月日の立つのは早いもので、卒業して四十二年が過ぎようとしております。私は山形県から上京し、現在は三軒茶屋になっておりますが、上馬一丁目にて下宿生活をしながら玉電で渋谷校舎に通学してまいりました。何故東京だったかと申しますと、県立の進学校の受験に失敗した為です。当時は当地に私立高校も無く、一年の浪人生活が待っていた為に、両親が将来駒澤大学進学することも考えて付属高を選んでそれに従ったと

私のひみじ⑨

看護師免許を取得して

東大和療育センター 四十九期J組 関戸 延枝



私は、昨年三月、看護師国家試験に合格し、現在看護師として働いています。

「看護婦さんになりたい」その夢は高校三年間変わることはありませんでした。所属していた吹奏楽部の友達、クラスメートのほとんどが進路を内定している三年生の一月から、私の受験に向けての戦いが始まりました。不安を除

何等かの形で修行出来るものと思い進学を決意し上京致しました。その後無事卒業し、駒大に進学して自坊に帰るべく生活を致してあります。「私のお寺」のテーマを頂きましたが特筆するような寺でもございません簡単に記しますと、西袋山、流泉寺と申しまして山形県庄内平野の真中に位置します。開山以来約三〇年くらいと村史が伝えております。檀家数一六〇個、御本尊は釈迦如来、主な行事は、大般若転読会を五月に行いますが、その他は曹洞宗の年間行事に準ずる様に務めております。私が現在二十六世です。自坊に帰ってから自動車教習所に二十五年間勤務、その後社会福祉法人で、

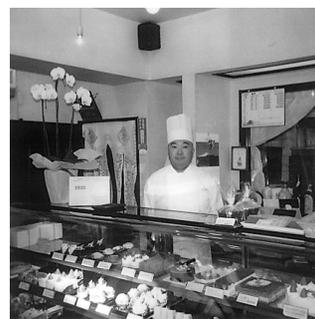
た。その看護を実践できる所は、一般病棟よりも、吹奏楽部で毎年訪問演奏させて頂いた、療育センターが良いのではと考え就職しました。

四月から看護師として仕事が始まったと同時に、初めての一人暮らしが始まりました。今まで朝起きる時は母親に頼っていました。起してくる人はいなくなり、目覚まし時計を三つセットし、朝寝坊が怖くて明け方に何度も目を覚ました。仕事が終わってから炊事をする気力もなく、カップラーメンに湯を注ぐことが精一杯で、部屋にはすぐに埃が溜まり、使った食器や洗濯物はあつという間に山になり、母親の有難みをひしひしと感じた一年でした。

現在は、仕事と一人暮らしの生活にだいぶ慣れてきました。平日も休日も、昼も夜も関係なく不規則な勤務時間ですが、私のやりたかった看護の仕事ができ、充実した毎日を送っています。

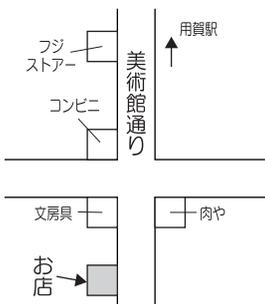
洋菓子 フロローラ

二十七期E組 上條 晴久



東急田園都市線用賀駅北口を出て美術館通りを馬事公苑の方へ二〇〇メートル程歩くと右側にフロローラ洋菓子店がある。

二十七期卒の上條晴久さんのお店である。お店はお父さん、お母さん、二人の従業員の計五人でやっている。晴久さんは大学卒業後五年間修業



住所 世田谷区用賀 電話 〇三・三七〇九・七〇二二

を積み今の店で洋菓子を作っている。もう十七、八年になるそう。生菓子の種類は二十五種類、焼菓子は十五種類が置いてある。その中でもタルト・タタン(リンゴを煮て焼きあげたもの)は小堀一機番組「こぎげんよう」でもとりあげられた程の人気ものだ!!

契約保養所の紹介

Welcome! All the Way HOME PAGE



オーナー 白石 健一 (16期N組) 静岡県河津町伊豆今井浜97-41 0558-34-1323 E-mail / a-theway@aurora.ocn.ne.jp



オーナー 尾上 毅 (24期J組) 長野県小県郡真田町菅平高原 0268-74-2126 http://www.xyj.co.jp/nagano/tonohara/



WARERA元気倶楽部

オーナー 進士 徹 (25期D組) 福島県東白川郡鮎川村大字赤坂東野字葉貫57 0247-48-2045 http://www2.ocn.ne.jp/abukuma/ E-mail / abukuma@basil.ocn.ne.jp

クラス会

平成15年

開催報告

十五期H組

(河村光司先生)

三月二十三日(日)

桜田門「法曹会館」



十五期H組のクラス会は河村校長がクラス担任をして下さった中では初めての卒業生ということになります。

互いの顔の変化に驚きました。というよりすぐにはわからないほど変形しておりました。卒業して三十八年、卒業式に当日参加できず、上野校長当時の卒業証書がそのままになっていたクラスメートの卒業証書授与式が、河村校長の代読で挙行されたのは感動でした。

報告(宮田利徳)

十八期H組

(梶山真琴・小野忠一先生)

四月二十六日(土)

白金台「八芳園・槐樹」

滝口幸利、横倉康裕両氏より、声がかかり、約三十年ぶりのクラス会。連絡とれた方二十七名(総員五十四名)当日、出席された方、小野忠一先生を含めやつと十八名。五

十スギのおやじが、いつのまにか高校生になっていったが姿はやはり、おやじだった。



報告(宇田川岩男)

三十四期K組

(井上保広先生)

五月十日(土)渋谷「えん」



毎年五月はクラス会というのが定着してきました。来年はより多くの仲間の参加を期待しております。

報告(外山朋矢)

十九期I組

(坪井 久先生)

六月二十一日(土)

新宿「東京大飯店」



坪井先生の退職祝を兼ね、クラス会を開催しました。団塊の世代と言われ無我夢中で突っ走って来た我々も今年五十三才です。厳しい社会情勢の中で、各々苦しい立場におかれていますが、この日は現実を忘れ、坪井先生と共に同期と旧交をあたため三十五年前、先生が担任となった二年間を懐かしく想い起こし、近況報告も交えながら語り合いました。二次会も全員参加で大いに盛り上がりました。

報告(上野哲志)

十七期F組

(松本 修先生)

八月二日(土)

白金台「八芳園」



「松本先生を囲んで」

今年の三月にご退職された松本修先生を囲み、先生が駒大高校に勤められ最初の担任となった十七期F組が、四年ぶりにクラス会を開きました。今回は、先生のご退職の祝いをする宴となり、十六名の同級生が集まりました。なかには卒業以来三十六年ぶりに顔をみせた人もおり、うま酒を飲み交わしながら、昔話に花が咲き、楽しいひとときを過ごすことができました。また、宴を催すにあたり、一学期後輩で八芳園接客支配人の宇田川岩男さんに、種々のご高配をいただき有難うございました。

報告(岩崎孝和)

五十三期K組

(高岸 晃先生)

八月二十日(水)

渋谷「ハブ」

高岸先生のご結婚をお祝いしようと、今回、企画しました。クラスの半分の人が参加してくれたので、とても楽しい時間をすごせました。

報告(久保田玲弥)

五十期I組

(浜田敏明先生)

八月二十二日(金)

用賀「養老乃瀧」

卒業後、毎年行っているクラス会です。毎年、なかなか全員がそろうことはむずかしくてできないけれど、一番の思い出の高校時代の友達と久しぶりに会って、高校時代の話で盛り上がり、近況報告など楽しくてあっという間に時間が過ぎていってしまいました。これからも続けていきたいと思えます。

報告(栗田知美)

四十三期A組
(須賀喜一郎先生)
八月二十三日(土)
渋谷「JYU」



代表(西村公吉)

四十九期B組

(玉置和夫先生)

九月二十七日(土)

渋谷「こまや」

代表(岩瀬洋子)

三十一期C組

(宮 健二先生)

十一月二十二日(土)

箱根湯本「水明荘」

代表(平沢正一)

二十四期C組

(伏谷義知先生)

十二月二十二日(土)

新宿「モノリス29」



伏谷先生をお迎えして、十年振り(前回、平成五年十一月二十七日)に同窓会を開催致しました。卒業して三十年振りの出席者もいました。十年前の住所で案内状を送付しましたが、十四通は返信されて来てしまいました。次回は、あまり間を開けないように、今年か来年には開催する予定です。伏谷先生も大変喜んで頂き、出席者一同感激でした。

報告(町田季実男)

五十三期K組

(高岸 晃先生)

十一月二十二日(土)

渋谷「FRIDAYS」

代表(久保田玲弥)

五十三期D組

(宮 健二先生)

十二月二十日(土)

渋谷「和民」

ひさしぶりに会ったこともあり、初め静かであったが、高校の時のように話はずみ

報告(梶山由美子)

O O G B 会

平成15年

開催報告

地理研OB会
(佐藤 正・深谷 元先生)
二月十五日(土)
駒沢「紅すずめ」



あっという間にクラス会は終ってしまった。定期的に集まることがとても大切だと思えました。楽しかったです。

報告(渡邊雄一)

五十期E組
(井上誠二先生)
十二月二十九日(月)
用賀「和民」



卒業から四年が経ち、人生の岐路に立つ者も多く、先生や、旧友達の言葉一つ一つが、いつもと少し違うように感じる感慨深い同窓会でした。

報告(梶山由美子)

地理研OB会は やつぱり「駒沢」の地で約二年ぶりに会った、かお・顔・カオ。挨拶もそこそこに乾杯。そして、近況報告ではそれぞれの立場での活躍の報告をする顔がいつしか現役の顔に戻っていた様です。今でも海外まで魚釣りにいって楽しんでる。年数回のマラソン大会に参加して、体作りに励んでいる。パソコンを購入して、今

回のOB会の名簿を作成した。運動不足を解消しようとして、スポーツジムに通っている。

等々。

また、佐藤先生・深谷先生の昔と変わらない元気な声と様子に、一同益々元気になったひと時でした。次回の幹事を決め、再会を約して終了しました。顧問をしていただいた黒田先生には幹事の不手際で参加していただかずお詫びいたします。次回お会いできることを楽しみにしております。

報告(石渡 進)

ラグビー部

(玉置和夫先生)

二月二十三日(日)

「駒大玉川グラウンド」他毎年、この時期に多数のOB&OGを迎えOB戦を開催しており、今年も五十人を超えるOBの方々の参加があり、盛大に行われました。ラグビーというスポーツの性質上、プレーをする機会から離れてしまうと、なかなか試合を楽しむことが難しいスポーツにも関わらず、OBの方々は昔を思い出し積極的に動き回っていました。

また、このOB会は同時に三年生の追い出し試合も兼ねており、高校生最後のラグビーの時間をOB達との熱戦で楽しみました。心配された怪我人も出ず、終始和やかな雰囲気、時間を過ごすことができました。参加して頂いたOB&OGの方々お疲れさまでした。

今回は都合のつかなかった方々も来年は是非参加して頂

き、一緒にラグビーで汗を流しましょう。

代表(葛西 功)

テニス部・男子

(中島勝彦先生)

三月三十一日(月)

用賀「和民」

楽しい集まりでした。次回は夏に行う予定です。

報告(北 賢)

卓球部

(横山 汪先生)

四月十三日(日)

「母校小体育館・和室」



現役選手とのトーナメント試合を行い、その後、現役・OB・先生との懇親会を開きました。

平成十六年は四月十一日(日)に開催します。多くのOBの方々の参加をお待ちしております。

報告(千谷真市)

ハンドボール部

(田中隆一先生)

七月六日(日)

「母校・和室」

代表(音五沢啓一)

吹奏楽部

(吉野信行先生)

七月六日(日)

用賀「青龍門」



用賀の「青龍門」で吉野信行先生の吹奏楽部顧問就任二十周年記念パーティを行いました。当初百名を予定していましたが、当日は百十三名ものOB・OGの方々に集まっていたいただきました。パーティは現役当時の思い出話で盛り上がり、小さな同窓会のような間に過ぎていきました。このパーティを開くにあたり多くのOB・OGの方々に協力をしていただいたことを厚く御礼申し上げます。

報告(長谷川大輔)

陸上競技部

(柏崎康利先生)

十月二十六日(日)

新宿「ホテルセンチュリーハイアット・弥生の間」



代表(志田英郎)

私の趣味②

お茶道楽



教諭 松川 誠 二

一九九九年三月、台湾から帰国した方に「凍頂烏龍茶」なるものを頂きました。今までの烏龍茶の感覚を完全に覆す味と香りにすっかり嵌まってしまった私はそれ以来台湾茶・中国茶の虜になつています。

インターネット環境の充実もこの趣味に拍車をかけることになりました。ネットを通して世田谷区に台湾烏龍茶専門店が存在を知り、様々な人と茶葉と出会い、多くの素晴らしい体験をしています。

あまりにもずんなりと私の生活に入り込んで来たので、何故自分がこれほどお茶好きになったのか深く考えたことはありません。今とはとにかく多くのお茶に出会いたいと考えています。中国茶・台湾茶の魅力の一つはバリエーションの豊富さでしょう。大まかには発酵の度合いや方法等で七種類程に分類されるようですが、それを細かく見ていくと数千とも言われるお茶が存在します。

一般には烏龍茶と言われているお茶は「青茶」と区分され、中国本土の福建省と広東省、それに台湾でしか生産されません。中でもお気に入りには台湾の文山包種茶と凍凍茶

その緑茶を大切に保存し、花の咲く初夏に様々な花を仕込んで作られるのが芸術茶です。花の香りを丁寧に移したのものや、梅や菊、ハマナスの花を束ねた葉に包み、お湯を注ぐとその花が顔を出すものもあります。お茶の味と花の香り、その愛らしい姿も楽しめるこうした芸術茶はカップにボンと入れお湯を注げばすぐ楽しめます。

実は中国茶を飲み始めてか

『ゴルフ部』

教諭・伊藤 優

ゴルフは、誰もが、それぞれの体力と技術に合わせ生涯を通じて楽しめるスポーツとの印象と、タイガーウッズ・丸山茂樹プロ等の活躍により、ジュニアゴルファーにも大変人気があり、本校ゴルフ部にもそんな影響があつて

か、ここ数年入部者が増えていきます。現在の部員数は、三年十二名・二年十四名・一年十六名となっています。

入部者の大方は、ゴルフと縁がなかった者ばかり。経験者といつても、親と何回か練習場でボールを打った程度であり、自分の道具を持つてコースをラウンドしたことがある生徒は殆どいません。そんな新入生部員が三ヶ月で夏の合宿でキャディバックを担いでコースラウンドができるようになるから驚きです。

週一度の井山ゴルフ練習場での打撃練習と、夏・春合宿時のラウンドレッスンに上原浩二プロから指導を受け、技

術の向上に努めています。東京都高校ゴルフ連盟では、三年前から連盟主催の月例競技(年五回)とマッチプレー(年七回)を実施し選手のレベルアップに努めています。多くの部員の中から出場条件を満たした選手を送り、一度でも試合経験を多く得るようになっています。

(英語科)

練習条件が悪い中であつても、部員の努力によって東京都代表として関東大会・夏季大会(団体・個人)に三年連続、冬季大会(個人)に五年連続出場と記録を伸ばしています。特に、今年度は、東京都の国体選考会で三年の白石和正君が優勝し、東京都代表選手として静岡国体に出場し活躍してくれたことは、部員に対して励みになりました。ゴルフの持つ楽しさと興行きの深さを理解できるように、日々努力していきたいものです。

(理科・ゴルフ部顧問)

平成十五年度諸会議報告

役員総会

五月三十一日(土)四時
同窓新報三十七号にて報告

常任幹事会

第一回
五月十六日(金)六時
「議事」
平成十四年度・事業報告
案承認
平成十四年度・決算報告
案承認
平成十四年度・会計監査報告の承認

第二回
平成十五年度・事業計画案承認
平成十五年度・事業予算案承認

第三回
平成十五年度会計中間報告
文化公演会の実施について

第二回
十月二十三日(木)六時
「議事」
平成十五年度会計中間報告
文化公演会の実施について

第三回
十一月二十七日(木)五時三十分
吹奏楽部・全国大会金賞受賞の祝賀金の贈呈式

「議事」
全国大会・金賞受賞(吹奏楽部)祝賀金決定
文化公演会の実施報告
厚生施設(東京簡易保険会館)との提携の審議

「議事」
平成十六年
一月十五日(木)六時
「議事」
防犯カメラ設置の補助金

平成十六年度の文化講演会の講演者の審議
クラブ助成(校友会)の「職」の審議

同窓新報編集委員会

六月十三日(金)六時
六月二十一日(土)三時
七月三日(木)六時
七月十七日(木)六時
八月二十九日(金)六時
九月十日(水)六時
十月三日(金)六時
十月十日(金)六時
十二月四日(木)六時

会費・寄付金納入者芳名

平成十四年十二月から平成十六年一月末日までに納入された方々です。今回も複数年度分納入された方がいらつしやいますが、詳細は省略させていただきます。

会費納入者(敬称略)

〔二期〕河野純香・佐藤園枝・松本勇・野中寛一・吉富勝一・薄井秀夫・吉田吉恵・原正男
〔二期〕関雅夫・石井清繁・須田道輝
〔三期〕大谷康憲・前川豊・谷口法山・島田寿三・小杉茂清
〔四期〕渡辺忠・谷口武
〔五期〕高島宗光・真田治孝・小川宏・井坂郁男
〔六期〕堀秀男
〔七期〕松原晋・桑山信晃
〔八期〕三田英雄
〔九期〕高村仁
〔十期〕向井三陽・高橋洋祐・関根正晴
〔十一期〕日南田義一・粕谷和夫・中野東禪・宮本弘賢・大森信二・伊藤武雄・葛西治

雄・杉山孝
〔十二期〕林一義・三浦英征・納谷僚一・武田旗夫
〔十三期〕大塚秀樹・表勝昭・堤崇
〔十四期〕野崎敏夫
〔十五期〕松山克雄・前田雅信・菅沼つとむ・清野幸俊・池口忠信・奥島武弘・宮田利徳
〔十六期〕矢部信雄・瀧澤俊勝・林則雄・操優一・小田倉敏夫・渡辺美彦・渡辺幸一・犬塚高明・高橋文彦・松山登・井汲堅一・松村喬・丸山晃三郎
〔十七期〕岩崎孝和・鈴木道雄・林雄二・住田博幸・向井功・盛田昇・鹿島廣・井上正雄・野村利明・斉藤準・横田登
〔十八期〕倉山徳治・坂田勝夫・前田隆司・布浦康史・山崎敬三・鈴木正人・神田孝・木村等
〔十九期〕岡部博文・脇田正治・塩入基臣・佐々木俊道・三浦信孝・井上猛・松村義光・持田文雄・岩佐善公・斉藤広志

〔二十期〕貫江博之・星野隆光・荒井伸夫
〔二十一期〕太田一斉
〔二十二期〕山崎猛・遥山秀道・深谷吉裕・酒井保行
〔二十三期〕大上晃・鈴木真・海老保・田中隆道・伊藤良一・松田浩正
〔二十四期〕森吉仁・野本育・水野博文・鈴木朗夫・菊地善彦・志田英郎・千谷真市
〔二十五期〕高村輝久・渡会元紹・田口正延・北晴久・浜崎保春・須貝敏弘・渡部雅樹・大瀧祐賢・進士徹・佐藤元泰
〔二十六期〕小山善之・川井康明・日原敏之・星康則・尾澤克広・宮路典行・藪田浩・横山等・安場義明
〔二十七期〕斉藤豊・田辺悟・田崎博識・鮫島大仙・神名洋太郎・上條晴久・西山義規・白浜勇二・椎本邦一・粕谷仁
〔二十八期〕野原正恵・三木達彦・内山信一・北原徹
〔二十九期〕横井高明・木原実・小林敏夫・川嶋充
〔三十期〕鈴木久人・長瀬恵則・須賀秀幸・島田伸一郎・戸谷浩次・岡部武・北井敏英・梅木久生
〔三十一期〕東和人
〔三十二期〕和田裕一・藤崎達也・網野正徳・遠藤広一
〔三十三期〕山本順祥・猪俣裕之・松浦慎・鈴木孝道・今井誠司
〔三十四期〕葛西好雄・大崎泰輝・金指純
〔三十五期〕吉田正幸・村上健・平石巨
〔三十六期〕内藤賢一
〔三十七期〕猪俣恭幸・森田昭道・内田祐生
〔三十八期〕山崎貴裕・湯本豊徳・本間茂・加藤安祥・石坂純一
〔三十九期〕照井清
〔四十期〕東潤・伊藤文久・阿彦尚志・佐藤修吾・山下剛・中西和宏・高橋淳史・羽場敬仁・磯部正
〔四十一期〕松本一郎・原田寿一
〔四十二期〕小柳智海・五味伸浩・長内功一朗
〔四十三期〕梅原政彦・石井将司・野村利和
〔四十四期〕山下大
〔四十五期〕古澤亮・市原英典
〔四十六期〕松本勇樹(白石)
〔四十七期〕山室正範・南総一郎・田島義隆・木村修・立川玄倫
〔四十八期〕伊藤秀真・龍園貴之・牧野高子・水田公規・長山靖・大村慎太郎・市原武史・石川美由紀
〔四十九期〕松浦学・織田澤智幸・小川奈津子・菊池大典・荒木秀元
〔五十期〕菊池栄春・安住啓太・松浦英修・中村公・花山智恵・山下道多・松本栄・渡邊賢
〔五十一期〕立川正倫・市村佳織・白石弘美・勝川孝一・荒岡宗真・丹呉宜裕・橋本良淳・岸田禎之・上伸人・大村俊一・猿渡信吾

〔五十二期〕鈴木涼子・沖崇信・榎本綾・郡山和也・山下玄通・龍園友誠・志村優・白数達朗・松井千尋・小川美肖・勝家美樹・佐藤雅徳・榎本仁・斉藤智史・五月女恵子・松浦理恵子・井上賢太・中館裕・内山翠山・金子修・吉田聖・宮武修一・柴田真理子・中村裕子・白井直哉・佐々木秀二・熊谷綾・菅原朋哉・光田杏奈・横尾友子

〔十九期〕三浦信孝
〔四十一期〕三浦信孝
〔四十八期〕松本一郎
〔四十九期〕松浦学
〔五十期〕菊池栄春
〔五十一期〕立川正倫
〔五十二期〕鈴木涼子



八転七起
朝食の定番に納豆がある。刻みネギとからしと醤油で粘りが出るまでかき混ぜると、鼻がツーンとくるあの独特の臭い。これを水力水力こぼんで食べるとなぜかおいしい。また、酒をたしなむ身としてつまみには、豆腐・枝豆・味噌など何かと大豆を用いるものが多い。このようなおいしいものが身近にある事は幸せである。

大豆が持つバリエーションは、この世の「食」に多くの物をもたらしてくれる。駒大高を卒業する同窓生諸君。粘りに粘って糸引いて簡単に諦めない心が、生きるべき道を探り、迷い、夢を抱き、その熱き心が、周囲の人を引きつけ周囲の情勢も大きく動かしていくそんな自分であるように大きく歩み出してほしい。

(あらい)